

清水知久自編著作目録

1956~1993

清水知久



まえがき

1. 1992年3月末までに印刷されたものを収めた。
  2. 100%網羅してはいない。手元に残っていないもの、記憶していないものもある。
  3. 次のものは省いた。恥を隠すためではないことを強調しておきたい。
    - イ. ベトナム戦争に反対し、朝霞基地の撤去を求める大泉市民の集い『ニュース』への寄稿
    - ロ. 各種のピラ、声明（これらのうちには清水が起草したものもある。）
    - ハ. 新聞（たとえば『毎日新聞』、『日刊ゲンダイ』）、週刊誌（たとえば『週刊現代』）の面接、電話による取材が活字になったもの
  - 二. 無署名のもの（このほとんどすべては1950年代後半の『世界経済』への寄稿である。当時清水は世界経済調査会の非常勤研究員だった。）
  - ホ. 辞典（平凡社『世界大百科辞典』、山川出版社版『世界史辞典』など）への執筆
4. 各項冒頭の一字を五十音順で説明する。分類はどの場合もむずかしい。

- |   |                   |
|---|-------------------|
| ア | アンケート回答           |
| イ | インタビュー            |
| エ | 日本語でいうエッセイ        |
| 解 | 解説                |
| 講 | 講演記録              |
| 座 | 座談会記録             |
| 書 | 書評                |
| 紹 | 書物の紹介             |
| 時 | 時評                |
| 対 | 対談                |
| 著 | 著書                |
| 追 | 追悼文               |
| テ | テレビでの発言記録         |
| 投 | 投書                |
| 動 | 学界動向              |
| 分 | 単行本分担執筆           |
| 編 | 編著または年表作成など       |
| 報 | 報告（主として市民運動、組合活動） |
| 訳 | 翻訳                |
| 論 | 論文                |



5. 右端の数字は発行の月日、または月を示す。新聞、週刊誌の場合は発行月日、月刊誌の場合は発行月号のことである。雑誌の大半は巻号数を省いた。
6. 単行本、掲載誌紙のページはすべて省いた。
7. なお、『史学雑誌』に載った米国現代史に関する学界動向は、『日本歴史学界の回顧と展望』第25巻『アメリカ』（山川出版社、1988）にすべて再録されている。便宜上、ここに記した。
8. この目録の印刷、刊行に当たって、日本女子大学大学院英文学専攻博士課程前期在学中の須藤聡子氏の助力を得た。感謝する。（1992年7月 清水知久）

※これは1992年7月に編まれたもの（1992年10月一部追加）に1993年分を加えて再編集した新版である。（2010年9月 清水美樹子）



1956

- 紹 「経済開発とアメリカの海外投資の役割」 『世界経済』 11.
- 訳 D. パーキンス「民主政治と外交政策」 『アメリカーナ』 11-12.
- 紹 W. ヘンダーソン「アメリカの超党派外交」 『世界経済』 12.

1957

- 論 「アメリカの外交政策」 『中央公論』 10.
- 分 「アメリカ民主主義の成長」 中屋健一編『自由主義と国民主義』（世界史大系12 誠文堂新光社）

1958

- 紹 「『国際産業開発会議』の紹介」 『世界経済』 1.
- 紹 「Foreign Affairs 1958年1月号全篇の紹介」上 『世界経済』 2.
- 訳 C. ギブソン、B. キーン「合衆国におけるラテン・アメリカ史研究の動向」 『アメリカーナ』 4.
- 紹 「外国人の日本観紹介」 『世界経済』 7.
- 紹 「ラテン・アメリカにおける反米運動」 『世界経済』 8.
- 訳 C. L. サルズバーガー『競争的共存』 鏡浦書房

1959

- 訳 M. リンゼイ「ソヴェトと話し合う条件」 『中央公論』 1.
- 訳 H. A. マイヤー「アメリカのテクノロジーと19世紀の世界」 『アメリカーナ』 2.

1960

- 分 「産業資本主義の発展と社会主義」 中屋健一編『近代社会の成立』（東京創元社）
- 解 「米上院外交委員会とフルブライト氏」 『中央公論』 1.
- 訳 H. D. ホーキンス「ジョーンズ・ホプキンス大学の誕生」 『アメリカーナ』 3.
- 論 「アメリカにおける外交政策決定過程」 『季刊国際政治』 春季号
- 論 「日米文化交流の諸問題」 『外交季刊』 春季号
- 訳 H. D. ハルーチュニアン「日本の近代化と武士階級」 『アメリカーナ』 5.



- 時 「日米関係の再検討」 『世界経済』 8.  
 論 「エル・ドラド追求の歴史から」 『中南米の研究』  
 (世界経済調査会)  
 解 「キューバの常識とアメリカの常識」 『中央公論』 10.

### 1961

- 書 山本進『東京・ワシントン』 『東京大学新聞』 9.27  
 書 F. クック著 山口房雄訳『CIA』 『図書新聞』 10.21

### 1962

- 動 「アメリカ史学界の最近の動向」 『歴史学研究』 3.  
 (有賀貞と共同執筆)  
 書 ロバート・ケネディ著 波多野・横堀共訳 『サンケイ新聞』 3.13.  
 『内部の敵』  
 時 「アメリカ」 『東京大学新聞』 4.11,  
 5.9,  
 5.30,  
 6.13  
 (連載)  
 論 「アメリカ共産党の失業者組織運動、1929-36」 『両大戦間  
 研究会会報』 8,9,10  
 1962-  
 (騰写印刷) 1963  
 論 「ニューディール」 『大戦間時代』  
 (世界の歴史 16,  
 筑摩書房)  
 書 ネビンス、コマジャー共著 黒田和雄訳 『サンケイ新聞』 9.17  
 『アメリカ史』上  
 論 「アメリカにおける学問の自由」 『歴史学研究』 11.

### 1963

- 論 「『ゆたかな社会』における貧困」 『世界経済』 3.  
 論 「アメリカの『ナショナリズム』について」 近代市民社会意識 3.  
 形成期研究会  
 『会報』(騰写印刷)  
 論 「アメリカのアメリカ史研究者たち」 『歴史学研究』 3.  
 書 F. L. シューマン著 宮地健次郎訳『冷戦』 『週刊読書人』 4.5



- 論 「スティヴンスン法とアメリカ」 『東京大学教養学部』 5. 1  
 社会科学紀要』 12  
 書 S. クラウス編 NHK放送学研究室訳『大いな『東京新聞』 12. 24  
 る論争』  
 訳 エーリッヒ・フロム『人間の勝利を求めて』(斎藤 岩波書店  
 真との共訳)  
 訳 D. A. シヤノン『大恐慌』 中央公論社  
 (玉野井芳郎との共訳)  
 分 「ルーズベルト」 『現代世界の  
 政治家』(『20世  
 紀を動かした  
 人びと』第11巻、講談社)  
 分 『動くアメリカ』 加藤秀俊編『新しいアメリカ』  
 (河出書房)

#### 1964

- 論 「アメリカ史における膨張」 『世界史の研究』 1.  
 動 「アメリカ史」「第2次大戦後の一」 『史学雑誌』 5. 3  
 (「1963年の歴史学界」)  
 論 「帝国主義期のアメリカ民主主義」 『歴史教育』 11.

#### 1965

- 論 「米国はジョンソンを選んだ」 『現代の眼』 1.  
 論 「第2次大戦終了期アメリカのアジア政策」 『歴史学研究』 5.  
 動 「アメリカ・現代」 『史学雑誌』 5.  
 論 「1961年キューバ『侵攻』と上院」 斎藤・深谷共編  
 『アメリカの対外  
 政策決定過程と  
 議会』(日本国際  
 問題研究所)  
 書 中山治一・猪木正道編『現代の世界』 『図書新聞』 6. 19  
 紹 「図書紹介」 『アメリカ研究』 9. 15  
 振興会会報』  
 訳 M. コイト『西部開拓』 時事通信社



1966

- 論 「アメリカの対外政策におけるアジア」 『思想』 2.
- 論 「ジョン・F・ケネディの1954年インドシナ観」 『日本女子大学紀要 文学部』 15 3.
- 論 「ケネディ=ロストウ路線とヴェトナム戦争」 『国際関係論研究』 1 4.
- 動 「アメリカ・現代」 『史学雑誌』 5.
- 書 リローン・ベネット著 中村妙子訳 『マーティン・ルーサー・キング』 『図書新聞』 9.10
- エ 「天皇体験」 『日本女子大学生新聞』 10.29
- 書 ストートン・リンド編『アメリカにおける非暴力』 『日本読書新聞』 10.31
- 時 「ジョンソン政権の中間選挙」 『朝日ジャーナル』 11.20
- 分 「戦争と平和」 齋藤孝編『国際関係論入門』 (有斐閣)

1967

- 座 「ジョンソン政権の内と外」(中村貢、武者小路公秀と) 『世界』 1.
- 論 「ワシントン会議における『門戸開放』」 『歴史教育』 1.
- 書 スウィージー、バラン共著 小原敬士訳『独占資本』 『日本読書新聞』 1.16
- 論 「アメリカ帝国についての覚え書」 『日本女子大学紀要 文学部』 16 3.
- 時 “Never Let Him Go To War!” 『The Mejiro Tattler』 10 4.
- 分 「ロシア革命とアメリカの支配層」 『歴史学研究』 5.
- 動 「アメリカ・現代」 『史学雑誌』 5.
- 論 「『太平洋共同体』と沖縄」 『世界』 8.
- 論 「“神話”から現実へ—— “知日派”パッカード氏の論文を批判する」 『朝日ジャーナル』 11.19
- 訳 R. ホーフスタッター『アメリカ現代史——改革の時代』(齋藤眞他4人との共訳) みすず書房



1968

- 著 『アメリカ帝国』 亜紀書房
- 座 「ベトナム和平の可能性をさぐる」(蠟山道雄、山本潔と) 『エコノミスト』 1. 30
- エ 「目白祭について」 『(日本女子大学)目白祭』 (2. 12)
- 座 「日米関係の新段階」(佐伯喜一他3人と) 『中央公論』 3.
- 講 「ベトナム戦争と戦後世界史」(婦人国際平和自由連盟日本支部講演会) 『女子大通信』 3.
- 論 「アメリカの『極東』理解」 『日本女子大学(3. 紀要)文学部』 17
- 論 「『対外イメージ』研究の問題点」 総合研究「アメリカにおけるコンフォームティの形成」研究会 『研究報告』
- 解 「ケネディ・ヴェトナム・アメリカ帝国」 『俳優座』 3.
- 座 「ベトナム新情勢をどうみるか」(陸井三郎他2人と) 『エコノミスト』 4. 16
- 座 「『偉大な社会』の病理」(猿谷要、宮地健次郎と) 『朝日ジャーナル』 4. 21
- テ 「アメリカのアジア政策——分析と展望」(森恭三他2人と) NHK教育テレビ 4. 23
- 動 「アメリカ・現代」 (『史学雑誌』) 5.
- 書 J. フルブライト著 平泉渉訳 『アメリカ外交』 共同通信配信 5. 28
- イ 「遠のいた変革」 『神戸新聞』 他 (共同通信配信)
- 時 「論壇時評」(共同通信社より出稿、1968年7月から1970年7月まで25回) 高知新聞、北海タイムス、信濃毎日、熊本日日、北日本新聞、神戸新聞、徳島新聞、中国新聞、四国新聞、神奈川新聞、南日本新聞、宮崎日日、福井新聞、等に掲載



- 解 “What Is Meiji Centenary?” *The Mejiro* 7. 9  
*Tattler* 50
- 書 F. クック著 仲晃他訳『アメリカ・腐敗の国』 『日本読書新聞』 8. 5  
 座 「大統領選挙とアメリカ民主主義」(小幡操他3人) 『週刊東洋経済』 9. 14  
 座 「地位の重さと人物の軽さ——米大統領はつくれる」(泉昌一、渡辺保男と) 『朝日ジャーナル』 9. 15
- 書 「楽観と悲観との往復——D. リースマン『政治について』 『中央公論』 10.  
 座 「アメリカ史における三つの視点」(有賀貞他8人と) 『季刊 歴史教育研究』 47  
 講 「『アメリカ帝国』の内と外」 『中央大学新聞』 10. 22  
 時 「草の根ファシズムへの危険」 『週刊東洋経済』 11. 16  
 論 「アメリカの選択と進路——ニューディール体制の破綻」 『エコノミスト』 11. 19  
 座 「アメリカン・デモクラシーの限界」(阿部斉、本間長世と) 『朝日ジャーナル』 11. 20
- 編 勝本清一郎他編『近代日本総合年表』(江口朴郎、岩波書店  
 富永幸生と「外国」欄を作成)

### 1969

- 論 「アメリカを根底から考え直す」 『中央公論』 1.  
 座 「ニューディール体制とアジア・ドクトリンのゆくえ」(阿部斉他2人と) 『世界』 1.  
 書 D. ホロビッツ著 山口房雄訳『超大国時代』 『日本読書新聞』 1. 20  
 書 レオン・トロツキー著 小林富雄訳『黒人革命論』 『図書新聞』 2. 1  
 座 「アメリカに希望はあるか」(武者小路公秀、山本進と) 『エコノミスト』 2. 4  
 解 「アメリカの歴史と国民性」 『英語研究』 4.  
 論 「『非植民地時代』としての70年代」 『エコノミスト』 5. 6  
 テ 「ニクソン外交と沖縄」(渡辺善一郎他2人と) NHK教育テレビ 5. 13  
 書 寺下誠一他訳『サミュエル・ゴンパース自伝』 『日本読書新聞』 6. 30  
 座 「日本の安全保障・70年代のビジョン」(関寛治他2人と) 『朝日ジャーナル』 7. 6  
 論 「ニクソン外交に奇跡は起こるか」 『エコノミスト』 10. 10



時	「ソンミ虐殺と植民地主義」	『毎日新聞』	12. 5
			夕刊
座	「論壇回顧・1969年」(稲葉三千男、玉野井昌夫と)	『エコノミスト』	12. 23
座	「『70年闘争』と歴史学」(喜安朗他6人と)	『歴史評論』	12.
座	「沖縄『返還』と革新の課題」(武藤一羊、高橋実と)	『展望』	12.
編	『アメリカ史邦文文献目録 1945-67』(井出義光、 三重野和子と共編)	日本女子大学 アメリカ研究室	
分	「1920年代」および「ルーズベルトの時代」	清水博編『アメ リカ史』(山川 出版社)・藤岡眞論	
論	「明白な宿命」	大橋健三郎編 『フロンティアの 意味』(南雲堂)	

## 1970

解	「『アジア』におけるニクソン外交」	『東書高校通信』	1.
		倫理・社会・政治・ 経済』74	
書	「アメリカとは何か——最近出版されたアメリカ 関係書から」	『サンケイ新聞』	2. 18
			夕刊
論	「アメリカ・1960年代」	『展望』	2.
対	「アメリカ社会の解体と反体制運動」(雪山慶正と)	『構造』	3.
論	「米軍基地に高まる反戦運動」	『エコノミスト』	3. 31
時	「死よりも赤を選ぶ」	『アサヒグラフ』	4. 10
報	「こちらRCMG・・・大泉反戦放送局です」	『週刊アンポ』	4. 20
論	「やさしい若者たち」	『朝日ジャーナル』	5. 3
報	「多様なデモに無限の思い」	『毎日グラフ』	5. 17
座	「カンボジア侵攻の局面と背景」(武藤一羊他2人 と)	『展望』	7.
報	「GI Join Us!」	『世界』	7.
紹	「私のすすめる本」	『月刊 エコノミスト』	8.
書	バン・アルスタイン著 高橋章他訳『アメリカ帝 国の興隆』	『日本読書新聞』	8. 3
書	小西誠『反戦自衛官』	『エコノミスト』	9. 8



- 時 「『暗黒の木曜日』41年後」 『毎日新聞』 10.24  
夕刊
- 論 「外国人の政治活動と“入管”」 『朝日ジャーナル』 10.25
- 論 「ラテン・アメリカ史構成のために」 『歴史と地理』 11.
- 時 「『性の言語』と『政治の言語』」 『毎日新聞』 12.1  
夕刊
- 講 「ケント大学虐殺事件」 『六月』(権時 12.8  
美智子十周年  
記念)
- 座 「論壇回顧・1970年」(高島通敏、鎌倉孝夫と) 『エコノミスト』 12.29
- 論 「アメリカ帝国主義の形成」 『岩波講座  
世界歴史』第22巻  
(岩波書店)
- 編 『米国軍隊は解体する』(古山洋三、和田春樹と共 三一書房  
編)

#### 1971

- 著 『アメリカ・インディアン』 中央公論社
- 解 “American Society and Sex” 『The Mejiro Tattler』 1.
- 書 『高木八尺著作集』 『日本読書新聞』 1.25
- 書 小川プロ製作『日本解放戦線 三里塚』 『エコノミスト』 2.2
- イ 「ラオス進攻をこうみる」 『中国新聞』他 2.9他  
(共同通信配信)
- 時 「外国人労働者の問題」 『展望』 3.
- 対 「日本と朝鮮」(李恢成と) 『月刊  
エコノミスト』 5.  
(のちに李恢成  
『風よ 海を渡れ  
李恢成十年の  
対論』同時代社、  
1982に収録)
- 講 「新しいアメリカ」 『国際問題研究会 5.  
月例講演会抄録』
- 時 「英語教科書の問題」 『展望』 5.
- 時 「沖縄民衆と闘いの共有を」 『世界』 6.



- 時 「『人を生かす』ということ」 『展望』 8. 3  
 座 「ニクソン訪中と中国の外交路線」(蠟山芳郎、山本進と) 『エコノミスト』 8. 3  
 論 「報道の自由と戦争責任」 『世界』 9.  
 投 「『海洋石油』の進出反対」 『月刊』 9.  
 ア 「ベトナム戦争は『終る』と誰が言うのか？」 『エコノミスト』  
 書 本間長世他編『現代アメリカ論』 『ベ平連ニュース』 9. 1  
 書 鶴見俊輔『北米体験再考』 『エコノミスト』 9. 21  
 時 「これでよいのか英語教育」 『週刊読書人』 10. 18  
 時 「『安保条約の誼み』」 『公明新聞』 11. 6  
 イ 「著作『アメリカ・インディアン』の背景」 『日本読書新聞』 11. 15  
 イ 「アメリカ史の暗部明かす」 『聖教新聞』 12. 19  
 論 「軍産複合体への批判」 小原敬士編『軍産複合体の研究』(日本国際問題研究所)

1972

- 論 「歴史家の眼」 『ジャーナリストの眼』 『新聞研究』 1.  
 時 「観光帝国主義」 『展望』 2.  
 エ 「米兵・日兵・文化の問題」 『小西反軍裁判』 2.  
 書 レッド・フォックス述 秋山一夫訳『白い征服者との闘い』 『サンデー毎日』 2. 6  
 エ 「『パワー』の問題」 『歴史学研究』 3.  
 書 若槻泰雄『排日の歴史』 『出版ニュース』 3月  
 書 北沢方邦『野生と文明』 上旬号  
 書 有賀貞『アメリカ政治史』 『週刊読書人』 3. 27  
 時 「緑—ホンモノとニセモノ」 『日本読書新聞』 4. 10  
 書 阿部斉『アメリカの民主政治』 『公明新聞』 4. 11  
 書 久野収『平和の論理と戦争の論理』 『読売新聞』 4. 14  
 座 「問われる日本の国際路線」(伊東光晴他3人と) 『サンデー毎日』 4. 16  
 『エコノミスト』 4. 27



- 報 「ハイエナ退治日誌——ソニーの南ベトナム進出に反対する」 『展望』 5.
- 書 猿谷要『アメリカ多数派の理想』 『サンデー毎日』 5.28
- 時 「アメリカ・インディアンの復権」 『聖教新聞』 6.7
- 報 「ハイエナ企業を許すな」 日本ユネスコ 7.  
学生連盟『第5回  
全国ゼミナール  
案内号』(タイプ  
印刷)
- 講 「アメリカ民主党大会と大統領選挙の予想」 国際問題研究会 7.  
『月例講演会抄録』
- 書 亀山旭『ベトナム戦争』 『週刊読書人』 7.24
- 報 「ハイエナ裁判」 『展望』 8.
- 解 「アメリカ・インディアンのこと」 『大草原の小さな家』  
(福音館書店) 8.
- 書 セルモア・メルマン著 高木郁郎訳『ペンタゴン・  
キャピタリズム』 『日本読書新聞』 8.14
- 時 「替歌について」 『展望』 9.
- 時 「ベトナム戦争の『英雄』」 『展望』 12.
- 論 「フロンティアとアメリカ帝国」 『西部劇の作家  
たち』(『世界の映  
画作家』16、キネマ  
旬報社)

### 1973

- ア 「73年——ことしはどうする」への回答 三菱重工業反戦  
株主会『のろし』
- 論 「反戦市民運動における『趣味と実益』」 『月刊  
エコノミスト』
- 解 「現代のアメリカ」 『東書高校通信』 2.  
世界史』
- 書 新谷行『アイヌ民族抵抗史』 『朝日ジャーナル』 2.2
- 書 袖井林二郎『燃えるアメリカ ゆれるアメリカ』 『サンデー毎日』 2.4
- 座 「米国の復元力を検証する—和平のもたらす歴史  
的意義」(佐伯喜一他2人と) 『エコノミスト』 2.6
- 論 「アメリカ帝国の発展構造・覚え書」 『史苑』 3.



座	「ヒッピー文化は死んだのか」(南博他2人と)	『プレジデント』米 3. 報 別冊・人間の行動 シリーズ』3
時	「ウーンデッド・ニー占拠の背景」	『日本読書新聞』 4. 2
時	「『奪う文化』への批判——有色少数民族の視点」	『聖教新聞』 4. 18
書	ブリット・ヒューム著 岩永正勝訳『ボス——米 国炭労の腐敗と殺人』	『サンデー毎日』 4. 29
論	「アメリカはモンロー主義へ回帰するか——行動 の自由を追求するニクソン」	『月刊 エコノミスト』 6.
解	「『最近のアメリカはわかりにくい』とはどういう ことか——『あれ』以後のアメリカの若者たち」	『ニューミュー ジック・マガジン』 6.
書	ポール・チェヴィニー著 大島良行訳『警察と市 民』	『サンデー毎日』 6. 17
書	ジェロルド・フランク著 木下秀夫訳『あるアメ リカの死——キング牧師暗殺事件』	『サンデー毎日』 7. 15
座	「戦後日米関係の終焉」(長洲一二他2人と)	『エコノミスト』 7. 17
論	「『力の立場』の限界——ニクソン外交の論理とそ の制約」	『世界』 8.
テ	「フルブライト留学生——アメリカと日本と私」 (佐伯彰一他2人と)	NHK教育テレビ 9. 2
書	井出義光他編『アメリカの南部』	『日本読書新聞』 9. 17
論	「久保田豊=日本工営と朝鮮・ベトナム」	日本女子大学史学 科『史艸』 14
書	ボールドウィン、ミード共著 大庭みな子訳『怒 りと良心』	『エコノミスト』 12. 4
時	「ベトナム援助への疑惑」	『公明新聞』 12. 19
論	「日本女子大はなにを捨てたか」	『月刊 エコノミスト』 12.
論	「ポストケネディの悪夢の十年」	『エコノミスト』 12. 25

1974

著	『アメリカ史研究入門』(高橋章、富田虎男との共 著)	山川出版社 1983年 に増補
書	フリード、レーン共著 井上一夫訳『ダラスの熱 い日』	『サンデー毎日』 2. 10
時	「憲法に生命吹き込む志」	『聖教新聞』 3. 3



解	「米国の人種差別」	『東書高校通信』	3.
		世界史』	
書	加藤恭子『消された大酋長』	『サンデー毎日』	3. 31
講	「ニクソン弾劾の可能性」	国際問題研究会	4.
		『月例講演会抄録』	
時	「三里塚——ベトナム」	島田君を支援	5.
		する会『三里塚	
		東峰公判ニュース』	
投	「思いやりに欠ける」	『毎日新聞』「マ	5. 14
		イクへの一言」欄	
報	「ベトナム戦争を終わらすために反ハイエナ連合	『びーいん』	8.
	を」		
書	J. アンソニー・ルーカス著 鈴木主税訳『ぼく	『サンデー毎日』	5. 19
	らを撃つな!』		
書	グレース・ハルセル著 北詰洋一訳『黒い性・白	『サンデー毎日』	7. 14
	い性』		
時	「ニクソン弾劾と米国人の憲法感覚」	『聖教新聞』	8. 2
講	「フォード政権の性格と方向」	国際問題研究会	8.
		『月例講演会抄録』	
座	「米国の世界戦略は後退必至か」(蠟山芳郎、富塚	『エコノミスト』	8. 20
	文太郎と)		
時	「ホワイトハウスを追われたあなたへの手紙」	『アサヒグラフ』	8. 23
時	「市民ニクソン」	『公明新聞』	8. 27
書	T. クリストフェル他編 宇野博二訳『アメリカ	『エコノミスト』	8. 27
	神話への挑戦』 I		
時	「みえてきた韓国と韓国人」	『社会新報』	9. 1
解	「アメリカの若者たち」	『学校図書館』	9.
書	小田実『「ベトナム」の影』	『サンデー毎日』	9. 8
書	呉林俊『伝説の群像』	『日本読書新聞』	9. 9
座	「迫られる日米同盟の強化」(蠟山芳郎、西山千明	『エコノミスト』	11. 19
	と)		
書	バーンスタイン、ウッドワード共著 常盤新平訳	『月刊	12.
	『大統領の陰謀』	エコノミスト』	
紹	「アメリカを読む100冊の本・運動篇」	『日本読書新聞・	12. 5
		DOMMUNICATION』	



1975

- 紹 「私のすすめる本」 週刊 1. 1  
ダイヤモンド
- 対 「混迷深まるアメリカ政治と新孤立主義」(袖井林 経営ビジョン 1.  
二郎と) (編)
- 論 「未完のニクソン時代」 『世界』 2.  
書 陸井三郎 『大国と第三世界』 『北海道新聞』 2. 23
- エ 「好奇心と経験」 Symposium (日本 3.  
女子大学英語英文  
学会学生誌
- 論 「『共和国賛歌』の履歴書」 『上代たの先生 3.  
米寿記念・英米  
文学論集』
- 時 「いま、パリ協定を考える」 『公明新聞』 4. 8
- 時 「韓国の人びとから学ぶこと」 日本女子大学 4. 15  
教職員組合『組合  
新聞』(同1989.  
5. 25に再録。以下、  
『組合新聞』と省略)
- 座 「新しい歴史に入るインドシナ」(今川瑛一他2名 『エコノミスト』 4. 22  
と)
- 書 猿谷要 『新大陸に生きる』 『サンケイ』 6. 30  
朝刊
- 書 今川瑛一 『アメリカの内政と外交73-75』 『公明新聞』 12. 22

1976

- 書 斎藤真 『アメリカ政治外交史』 『朝日ジャーナル』 1. 16
- 時 「悪夢と化した『アメリカの夢』」 『日本読書新聞』 2. 2
- 時 「人権は守られたか——尹秀氏への最高裁判決」 『婦人民主新聞』 2. 6
- 論 「カリフォルニア農業労働者の運動——歴史と性  
格」 『日本女子大学 3.  
紀要 文学部』 25



論 「アメリカ帝国の発展構造」	『思想』(のちに 磯村英一編『現 代世界の差別問題』 明石書店、1985に 収録)	3. 9. 1
座 「座談会・強まる多国籍企業への挑戦」(今川瑛一、 西川潤と)	『エコノミスト』	3. 29
報 「やつらも苦しい——金芝河裁判を傍聴して」	日韓連帯連絡 会議『日韓連帯 ニュース』	4. 15
書 D. P. マニックス著 土田とも訳『黒い積荷』	『日本読書新聞』	5. 3
書 マイケル・ブレイカー著 池井優訳『根まわし・ かきまわし・あとまわし』	『北海道新聞』	5. 4
講 「アメリカ帝国の現段階と第三世界」	反公害輸出通報 センター『アジア 寺子屋シリーズ』1	5. 29
書 猿谷要編『人口と人種』	『サンケイ』	6. 1 朝刊
書 フライマーク、ローゼンタール共編 谷口陸男監 訳『奴隷制とアメリカ浪漫派』	『朝日ジャーナル』	8. 27
紹 「ストウ夫人著『アンクル・トム的小屋』につい て」	『月刊 エコノミスト』	9. 9.
時 「ロッキードに乗って」	『組合新聞』	9. 1
イ 「『民主救国宣言』について」	『韓国青年新聞』	11. 5
座 「カーター路線がめざすもの」(今川瑛一、中尾光 昭と)	『エコノミスト』	11. 16
エ 「『天皇在位50年記念』問題」	『組合新聞』	11. 20
書 鶴木真『日系アメリカ人』	『サンケイ』	11. 29 朝刊
エ 「私が、今年考えてみたいいくつかのこと」	『日韓連帯 ニュース』	12. 15
<b>1977</b>		
書 マッティ・ゴラン著 込山敬一訳『裏切り』	『エコノミスト』	1. 11
エ 「賈作・金花黒薔薇艸紙」	『組合新聞』	2. 1



- 訳 ジョン・コスター『この大地、わが大地——アメリカ』(三一書房)『スリランカ』 論  
 リカ・インディアン抵抗史』(如月イヌヒラゴモコノ林の中にひるまぬ種)
- 書 斎藤眞『アメリカ現代史』 『日本読書新聞』 2. 28  
 時 「徴兵拒否者への恩赦」 『朝日新聞』 2. 28  
 夕刊
- 論 「労働者の国際的移動」 日本女子大学 会誌 3. 1957  
 『英米文学研究』 12
- 論 「偽証を怒らぬ日本的風土」 『朝日ジャーナル』 3. 18
- 書 ジョン・ガードナー著 加藤・国弘共訳『コモン・コース』 『公明新聞』 6. 6
- 書 山口光朔『現代アメリカ論』 『出版ニュース』 6月  
 中旬号
- エ 「ゲームはおもしろいことがよいことなのだ」 『組合新聞』 6. 30
- 論 「アメリカニズムの再生」 『文学』 7.
- 書 河合秀和『政党と階級』 『北海道新聞』 8. 30  
 朝刊
- エ 「民族文化を考えるいとぐち」 『三里塚東峰  
 公判ニュース』 9.
- 書 本間長世解説『アメリカ・インディアン』 『読書人』 9. 5
- 時 「復権する少数民族」付「アメリカ黒人の歴史略  
 年表」 『朝日新聞』 9. 28
- 論 「政治権力と歴史家の良心——アーサー・M・シ  
 ユレジンガーの場合」 『朝日ジャーナル』 9. 30
- 座 「アメリカの強さと弱さ」(陸井三郎、富塚文太郎  
 と) 『エコノミスト』 10. 20
- 座 「座談会・第一次大戦後の世界と日本」(今井清一  
 他2人と) 『歴史公論』 11.
- イ 「日韓関係」 『韓国青年新聞』 11. 5,  
 12. 15
- 論 「『ロッキー』と『ルーツ』」 『展望』 12. 1957
- 講 「世界史の見方」 『女子大通信』 12. 1957
- 報 「金芝河裁判傍聴記」 青地晨・和田春樹  
 編『日韓連帯の  
 思想と行動』(現代  
 評論社)



編 「文献リスト・アフリカ／カリブ／アメリカ」大の『ニューミュー  
 (解説ならびに中村とうようとリスト作成) ジック・マガジ  
 ン年鑑 '77』

1978

- 報 「国会請願署名運動の記録」 『日韓連帯練馬  
 の会ニュース』 5
- 報 「条例では人権は守れない——練馬区における住  
 民基本台帳の電算化反対運動の記録」 『月刊自治研』 1.
- 書 O. E. クラップ著 仲村・飯田共訳 『英雄・  
 悪漢・馬鹿』 『エコノミスト』 3.14
- 工 「労働力の国際的移動——私の研究テーマ」 『エコノミスト』 4.25
- 報 「条例では人権は守れない——区民不在の練馬区  
 政」 『月刊自治研』 4.
- 書 ジェローム・パロン著 清水英夫訳 『アクセス権』 『公明新聞』 7.31
- 解 「逆差別は存在するか——アメリカ」 狭山差別裁判 8.  
 取消し、無実の石川  
 一雄即時釈放要求  
 中央委員会『狭山  
 差別裁判』
- 工 「私と野球——その名は不滅 わが民軍」 『エコノミスト』 8.15  
 -22
- 書 ウィリアム・マンチェスター『栄光と夢・アメリ  
 カ現代史』 『週刊読書人』 8.21
- 報 「マクリーン訴訟・強化されたおかみの支配」 『婦人民主新聞』 10.27
- 報 「共同報告 日本の対朝鮮政策の転換を」(青地農  
 他19人と) 『世界』 11.
- 編 「雑誌『世界』の『朝鮮・韓国・日本』記事目次」 日韓連帯委員会 11.  
 『日韓連帯』
- 書 猿谷要『アメリカ大西部』 『サンケイ』 11.20
- 報 「編集後記」 『日韓連帯』 1978.11,  
 '79.2,  
 '79.5,  
 '79.8,  
 '79.12,  
 '80.3,



'80. 7, 『朝日ジャーナル』 81. 9,  
 『朝日ジャーナル』 84. 2,  
 『朝日ジャーナル』 84. 10.  
 解 「A. ハイリーとJ. F. カーター——新しいア 『ニューミュージック』 4.  
 メリカの夢を描くのは誰なのか」田味 『ジック・マガジン』  
 『朝日ジャーナル』 年鑑 '78』

1979

エ 「オカミこそ裁く——ほんとうのオカミとは」 『三里塚東峰 公判ニュース』 3.  
 論 「労働力の国際的移動——世界史のために」 『日本女子大学 紀要 文学部』 28.  
 書 J. マッキンレー著 和田敏彦訳 『アメリカ暗殺の歴史』 『サンケイ』 3. 5.  
 エ 「入学試験の感想」 『灯台』 4.  
 報 「はじめて歯止めをかけた練馬区の闘い」(口頭報告再録) 『コンピュータ 合理化研究会『国民総背番号制とのたたかい』』 6.  
 書 ジョン・M・マキ著 高久真一訳 『クラーク——エコノミスト』 『サンケイ』 6. 6.  
 書 亀井俊介 『メリケンからアメリカへ』、常盤新平 『アメリカが見える家』 『サンケイ』 6. 27.  
 講 「日本政府の朝鮮政策転換を」(日本社会党主催 『社会新報』 7. 10.  
 「朝鮮問題シンポジウム '79」における発言抄録) 『女子大通信』 7.  
 講 「学問の今日と明日」 『朝日ジャーナル』 8. 10.  
 論 「海図なき荒海を漂うカーター政権」 『日韓連帯』 8.  
 報 「『朝鮮問題シンポジウム』について」 『世界』 9.  
 訳 金大中 「カーター訪韓と韓国の民主主義」 『朝日ジャーナル』 9. 28.  
 論 「夫が妻に I Love Youといわなくなっ 『朝日ジャーナル』 9. 28.  
 たとき」 『信濃毎日新聞』 9. 29.  
 時 「世界恐慌から50年」 『世界週報』 10. 2.  
 時 「事件としてのキューバ駐留ソ連軍」 『社会新報』 10. 5.  
 時 「二つの注文」 『聖教新聞』 10. 21.  
 時 「アメリカの困難と希望」 『学校事務』 10.  
 イ 「なぜ私たちは『便利さ』に反対するのか」



1980

- 時 「いまこそ正義の復権を」 『社会新報』 1. 15
- 論 「ポスト“米国の世紀”を模索する米国」 『エコノミスト』 1. 15
- 座 「ファシズムへの服従と抵抗の論理」(北原敦、加藤晴康と) 『歴史公論』 2.
- 座 「韓国の情勢をみつめて」(青地晨、和田春樹と) 『日韓連帯』 3.
- 論 「大統領と文人——ルーズベルトとジェームスの場合」 日本女子大学 3.  
『英米文学研究』 15
- 書 ただの市民が戦車を止める会編『戦車の前に座り込め・・・』 『労働情報』 4.
- 時 「民衆の闘いに学べ」 『社会新報』 6. 20
- 投 無題 『東峰公判』 7.  
ニュース』
- 報 「6月2日集会の記録」 『日韓連帯』 7.
- 解 「大恐慌下のアメリカ」 東京書籍 9.  
『中学社会・教室  
の窓』
- 論 「1980年・韓国の寒い夏」 『エコノミスト』 9. 16
- 報 「共同報告 金大中氏裁判と日本」(青地晨他18人と) 『世界』 10.
- 報 「教育の環境と条件——教育の現状」・「座談会・教育の環境と条件」(加藤恵子ら5人と) 日本女子大学 11.  
教職員組合白書  
委員会『日本女子  
大学白書』
- 時 「米国大統領選の意味」 『毎日新聞』 11. 10  
夕刊
- 紹 「正統ということ—金大中『民主救国の道』を読んで」 『新教』 秋季号
- 報 「時をわがものに」 “金大中氏を  
殺すな”市民署名  
運動『署名運動  
ニュース』 3



- 報 「『日本女子大学白書』がはじまった」 『組合新聞』 1.8(の  
ち)に同  
1989.5.  
25に再  
録)エ
- エ 「恋愛と結婚——姪への手紙」 日本道德 1.2月  
教育学会『道德 合併号  
と教育』
- 報 「三世代が集まって、祈った」 『三千里』 2.  
座 「再生を試みる夢見る人々の国」(国弘正雄他2人 『エコノミスト』 2.10  
と) 『エコノミスト』
- 解 「アメリカ社会における黒人問題」 The New Crown 3.  
English Series,  
Teacher's Manual
- 対 「レーガン狙撃を生んだアメリカの『自由』」(猿 『朝日ジャーナル』 4.17  
谷要と)
- 座 「“金大中氏を殺すな”市民署名運動の中で」(和 『福音と世界』 4.  
田春樹ら8人と)
- 座 「新日韓条約体制を検討する」(大内穂他6人と) 『世界』 5.  
報 「『日韓修復』は進んでいるか——日米韓関係の現 市民運動「金 7.  
在」 大中氏らに自由  
を」『三世代通  
信』2
- 紹 堀田善衛『若き日の詩人たちの肖像』 日本女子大学 7.  
図書館『学生に  
すすめる百冊の  
本』
- 時 「観光客の目」 『第三文明』 8.  
論 「レーガン下の“静かならざる”アメリカ」 『エコノミスト』 9.8  
紹 「米国人専門家の朝鮮情勢観」 『日韓連帯』 9.  
座 「日米韓関係と日本の選択」(倉塚平、和田春樹と) 『日韓連帯』 9.



1982

- 講 「鈴木内閣と私たちとの関係」 『三世代通信』 3 1, 2月  
合併号
- 論 「マッカーシイズムへの抵抗——三女性の品位と  
威厳」 『日本女子大学 3.  
紀要 文学部』 31
- エ 「『草の根エリート』論」 日韓民衆の連帯 4. 10  
をつくる行動  
連絡会『ともに  
生きん』 9
- 時 「世界と日本と私たち」 『組合新聞』 4. 20
- 時 「米中間選挙 引き分けの意味」 『信濃毎日新聞』 11. 9
- 論 「帝国主義形成期の階級と民族」 阿部齊他編『世  
紀轉換期のアメ  
リカ』(東大出版会)

1983

- 報 「共感と希望」 『福音と世界』 3.
- 論 「歴史家としてのベトナム復員兵の出発」 日本女子大学 3.  
『英米文学研究』 18
- 論 「米国反共主義における同性愛者狩り」 『日本女子大学 3.  
紀要 文学部』 32
- 書 石垣綾子『我が愛一流れと足跡』 『思想の科学』 4.
- 座 「韓・美〔米〕・日三角安保体制の新展開」(中川  
信夫、猪狩章と) 『漢陽』(ハン  
グル) 4.
- 書 W. T. ヘーガン著 西村頼男他訳『アメリカ・人  
インディアン史』 『週刊ポスト』 9. 16
- 論 「二つの独裁政権」 『世界』 10.  
新教出版
- 編 『金大中氏たちと共に』(和田春樹と共編) 色川大吉他編  
『今日の日本を  
憂える六人の市民  
の提言』(平凡社)
- 著 『年表 ベトナム戦争 1, 2』 私家版 1983~  
84



1984

0801

- 論 「歴史の意味——死者と折合うこと」 『福音と世界』 2. 理  
 座 「ランゲン事件を考える」「続・対話への動きを  
 めぐって」(和田春樹他2人と) 『日韓連帯』 2. 工  
 時 「『ハート現象』と米国の保守主義」 『聖教新聞』 3. 22  
 解 「ジョン・ケネディの死と米国人の記憶」 『本』 3.  
 論 「新しい米国人と『風土』」 日本女子大学 3.  
 論 「恥から誇りへの学校」 『英米文学研究』 19 工  
 講 「注文と約束」 『シアレヒム』 7 4. 工  
 書 ミネ・オークボ画・文、前山隆訳『市民13660』 『週刊ポスト』 7. 20  
 論 「1970年代——政策転換の好機と破壊」 『世界』 8.  
 座 「いま何をなすべきか」(和田春樹他5人と) 『世界』 8.  
 解 「フェラーロ氏指名の背景」 『月刊婦人展望』 9. 1  
 座 「全斗煥氏来日を考える」(和田春樹他2人と) 『日韓連帯』 10.  
 追 「花の青地先生」 『日韓連帯』 10.  
 対 「レーガン圧勝後のアメリカ」(中尾光昭と) 『エコノミスト』 11. 20  
 時 「全斗煥大統領来日報道についての感想」 『マスコミ市民』 11.  
 座 「時代を映す鏡」(イレヌ・アイアンクラウド他  
 2人と) E. カーティス  
 写真集『北米イン  
 ディアン悲史』  
 (アブック出版局) 講談社

1985

- 報 「信仰をもつこと」もたぬこと」 『日本のキリスト 1.  
 教の現在と将来』  
 (新教出版社)  
 書 小川晃一・石垣博美編『戦争とアメリカ社会』 『エコノミスト』 4. 16  
 追 「山口さんのこと」 『組合新聞』 6.  
 時 「ベトナム戦争終結10年のアメリカ」 『聖教新聞』 10. 5  
 イ 「センチメンタルを恐れずにベトナム体験を語ろ  
 う」 『書齋の窓』 11.  
 工 「アップル・パイの話」 『女子大通信』 12.  
 著 『ベトナム戦争の時代』 有斐閣



1986

- 座 「新生なるかフィリピン」(岩動道行、池端雪浦と) 『東京新聞』 2.25  
 エ 「脚註風味のアップル・パイ」 『Veritas Letter』(日本女子大学大学院 英文学専攻 学生誌) 4.  
 エ 「ハンコと面接」 『月刊健康』 6.  
 エ 「いま、自己批判を求めるノラ」 『三里塚東峰 公判ニュース』 12.69  
 著 『米国先住民の歴史』 明石書店

1987

- 投 「持続はチエ オモイヤリ」 『むくげ通信』 1.25  
 報 「ベトナムの韓国軍」 日本と韓国を 2.15  
 考える三世代の会 『通信』 8  
 エ 「高見の見物」 『ジュリスト』 4.1  
 紹 「ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』他9書」 『思想の科学—これは面白い本だ!文庫1007冊』 5.  
 時 「60年代論の中のアメリカ」 『聖教新聞』 8.29  
 書 油井大三郎『戦後世界秩序の形成』 『アメリカ史研究』 10  
 著 『1960年代—ことばが語る時代の気分—』 有斐閣  
 著 『ベトナム戦争論集』 私家版

1988

- エ 「埋め草」5篇 『組合新聞』 3.  
 論 「米国海兵隊少佐とジョン・ミルトンとベトナム戦争小説研究」 『日本女子大学 紀要 文学部』 37



エ	「半分の歓迎」	日本女子大学 全学新歓実行 委員会『新入生 歓迎パンフレット』	4.
座	「世界をどうとらえる 世界とつながる」(芝生瑞 和、板垣雄三と)	『国際政治入門』 (日本評論社)	4.
講	「国際政治と若者の政治的無関心」	同上	
エ	「埋め草」3篇とアンケートへの回答	『組合新聞』	6.
エ	「親の職業・子の苦情」	『健康』	7.
エ	「気分を渡します」	『組合新聞』	10.
エ	「女のけんか」	『組合新聞』	12.
投	無題	『韓国通信』	12.

### 1989

時	「三つのこと」	『組合新聞』	2.
エ	「主権在民」	『組合新聞』	3.
エ	「安心半分 心配半分」「重しと初心」	『組合新聞』	5.
時	「吹きとんだこと」	『組合新聞 号外』	6.9
書	Thomas R. H. Havens, <u>Fire Across the Sea</u>	『アジア経済』	8.
時	「ベトナムを見守るときに」	<u>That Tinh</u> (PIT ベトナム・カンボ ジア・ツアー 国米 参加者文集)	
訳	R. コーエン『労働力の国際的移動』	明石書店	8.

### 1990

エ	「偏った祝福」	『組合新聞』	2.
エ	「“さりげなく”に反対」	『組合新聞』	3.
論	「ハンガリー革命と米国の三文人」	日本女子大学 『英米文学研究』25	3.
論	「米国人の戦争と喪」	『日本女子大学 紀要 文学部』39	3.
エ	「学生と教師の間」	<u>Symposium</u>	3.
解	「1980年代の米国とベトナム戦争の記憶」	『歴史地理教育』	5.
追	「安藤一郎さんのこと」	『組合新聞』	5.



書	マイラ・マクファーソン著 松屋式之訳 『ロング・タイム・パッシング』	『時事英語研究』	7. 2
時	「いわゆる湾岸危機と私」	『ねりま1991』	9, 10.
			合併号 (誤植 訂正の 後、同 11, 12. 合併号 に再録)
イ	「中東問題——米国をみてもいろいろな考え方があ る」	『わくわく大泉 通信』	11. 10
追	「亀井規子さんのこと」	『組合新聞』	11.
講	「日本の夢・アメリカの夢」	『女子大通信』	11. 1
論	「アメリカ建国神話」	柴田三千雄他編 『権威と権力』 (岩波書店)	
論	「ベトナム戦争小説の兵士像」	徳末愛子編著 『アメリカ—— 弱者の目を通し て』(こびあん書房)	
講	「米国——ベトナム体験の現在」	平和に生きる権利 の確立をめざす 懇談会編『激動 する世界と日本 の安全保障』(昭 和出版)	
著	『ベトナム戦争論集・続』	私家版	
著	『ベトナム戦争論集・3』	私家版	
訳	J. ハリディ、B. カミングス『朝鮮戦争—— 内戦と干渉——』	岩波書店	

### 1991

投	「首相に毎日手紙」	『月刊トマ喰虫』	3.
エ	「自立と独立」	『月刊健康』	8.
投	無題	『韓国通信』	10.



- 論 「自己像の変容とジレンマ」 『海外事情』 10.  
 エ 「受けつぎ 渡す」 『組合新聞』 12.  
 著 『パス・イット・オン』(講演集) 私家版

1992

- エ 「また、アップル・パイの話」 『女子大通信』 2.  
 報 「最後のご挨拶」 日本女子大学 3.18  
 教職員組合『組合報』  
 論 「Dickens の米国・Channing の英国」 日本女子大学 3.  
 『英米文学研究』 27  
 論 「日本女子大学英文学科『アメリカ研究』の28年」 『日本女子大学 3.  
 紀要 文学部』 41  
 エ 「Ever Onward」 Symposium 3.  
 エ 「幻の名著」 Veritas Letter 3.  
 講 「私はいい教師でした——退職の挨拶」 『日本女子大学 4.  
 学園ニュース』  
 著 『アメリカの大衆文化』 明石書店

1993

- 訳 インター・プレス・サービス編 明石書店 9.  
 『先住民族——地球環境の危機を語る』  
 座 「海洋帝国と大陸帝国が対立する」 『民族移動と文化 10.  
 (大木英夫、佐口透と) 編集』NTT出版



## 略 歴

- 1933年 東京に生まれる
- 1956年 東京大学教養学部アメリカ科卒業
- 1958年 東京大学大学院国際関係論修士課程修了  
専攻 国際関係論  
アメリカ現代史
- 1959年 東京大学教養学部助手
- 1963年 日本女子大学文学部専任講師（英文学科）
- 1967年 同助教授
- 1968年 「大泉市民の集い」結成に参加 ベトナム戦争反対などの市民運動を始める
- 1969年 日本女子大学教職員組合結成に参加
- 1979年 日本女子大学文学部教授
- 1992年 日本女子大学退職
- 2010年2月7日 死去 享年76